

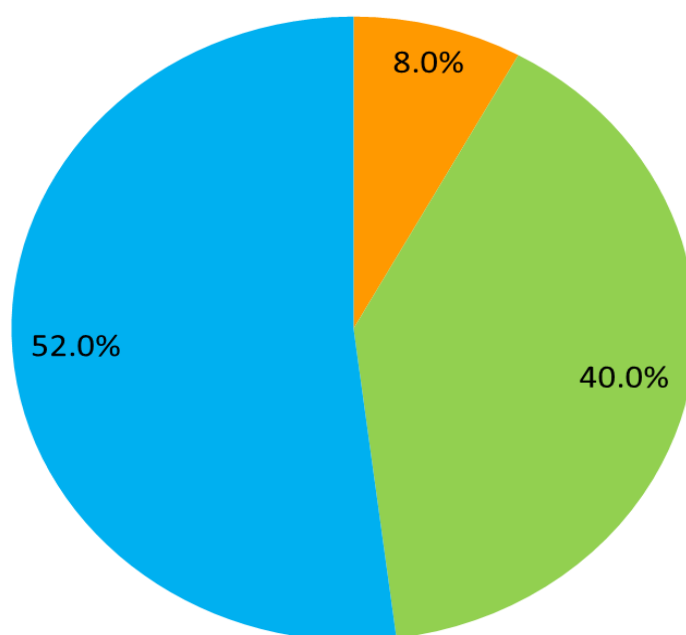
SSH中間評価（令和5年度実施）の結果について（総括）

対象校25校（開発型・実践型：20校、先導的改革型5校）について、SSH企画評価会議協力者による総合評価及び項目別評価を行った。

I 総合評価

項目別評価の結果を合計し、6段階評価で行った。一定程度以上の高い評価を受けた学校が48%だった一方で、一層の改善努力が求められる学校が52%であることが認められた。なお、このままでは研究開発のねらいを達成することが難しいと思われる学校や今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成が困難であると思われる学校はなかった。

(1) 構成比



【評価の目安（6段階）】

- 優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる
- 研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される
- このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される
- 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される

(2) 各対象校の状況 (※は先導的改革型)

【優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される (0校)】

該当校なし

【これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される (2校)】

石川県立小松高等学校

京都府立洛北高等学校・洛北高等学校附属中学校 ※

【これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる (10校)】

山形県立酒田東高等学校

群馬県立高崎高等学校

東京都立科学技術高等学校

東京都立富士高等学校・附属中学校

神奈川県立横須賀高等学校

滋賀県立膳所高等学校

鳥取県立鳥取西高等学校

大分県立日田高等学校

山梨県立甲府南高等学校 ※

熊本県立第二高等学校 ※

【研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される (13校)】

北海道旭川西高等学校

福島県立会津学鳳高等学校・中学校

千葉県立長生高等学校

長野県飯山高等学校

愛知県立刈谷高等学校

学校法人名城大学 名城大学附属高等学校

三重県立松阪高等学校

兵庫県立尼崎小田高等学校

奈良県立青翔高等学校・青翔中学校

学校法人ノートルダム清心学園清心中学校清心女子高等学校

熊本県立鹿本高等学校

石川県立七尾高等学校 ※

大阪府立天王寺高等学校 ※

【このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される (0校)】

該当校なし

【現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される (0校)】

該当校なし

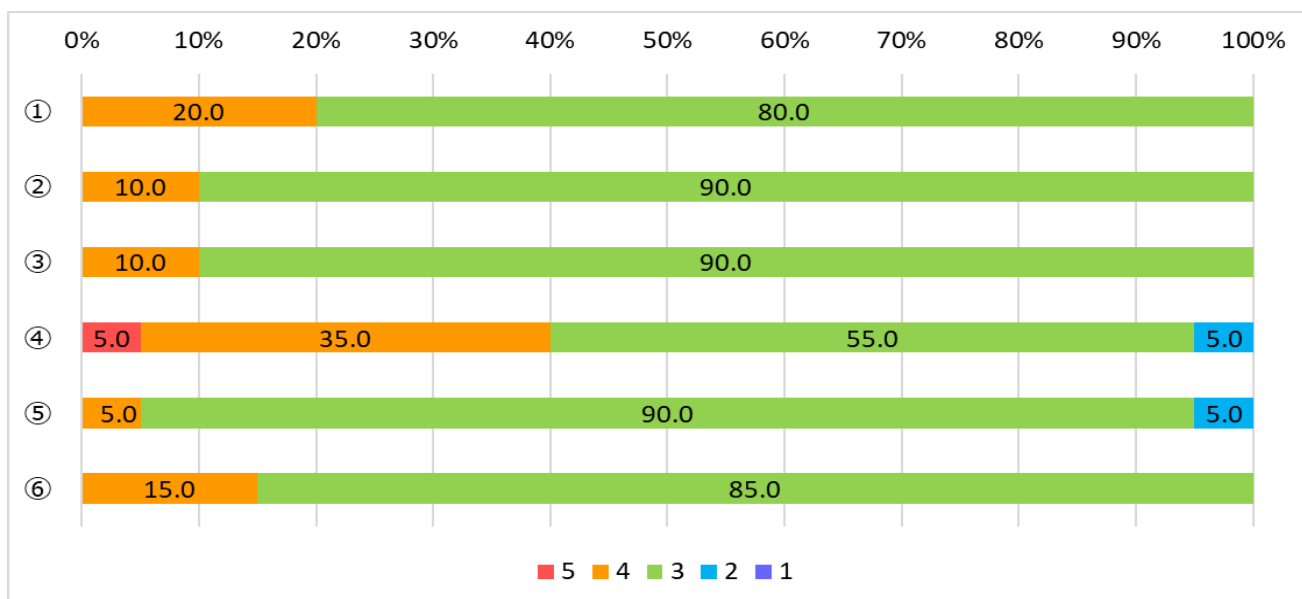
Ⅱ 項目別評価（開発型・実践型）

各評価項目について、5段階評価で行った。

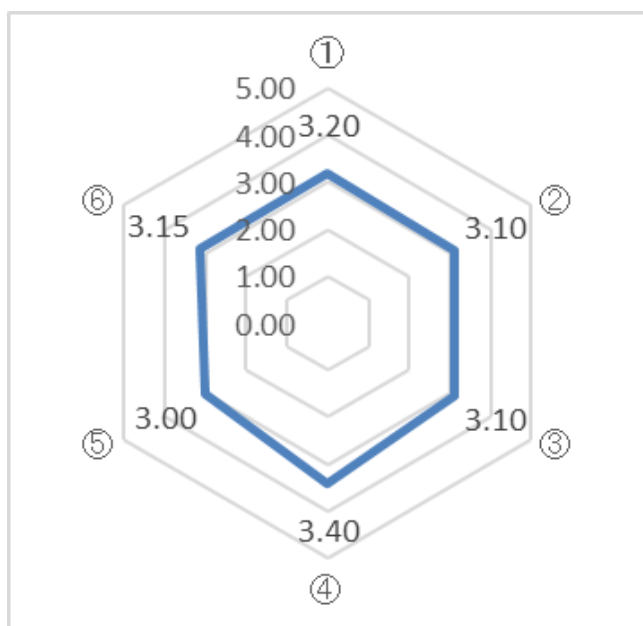
【開発型・実践型の評価項目】

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| ①研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価 | ②教育内容等に関する評価 |
| ③指導体制等に関する評価 | ④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
(2項目選択制) |
| ⑤成果の普及等に関する評価 | ⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価 |

(1) 項目ごとの構成比（開発型・実践型）



(2) 項目ごとの平均値（開発型・実践型）



<評価の目安（5段階）>

- 5：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高いと思われるもの
- 4：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもの
- 3：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されていると思われるもの
- 2：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要すると思われるもの
- 1：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の大部分が達成されておらず、抜本的な見直しを要すると思われるもの

(3) 項目ごとの概況

【① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価について】

- SSHの取組を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にしながらか研究開発を実施することが求められる。
- 生徒の変容を測るための評価方法について、生徒の自己評価で終わらないよう、それぞれの行動指標を教師から評価する等、客観的な評価になるような枠組みも必要である。
- 運営指導委員会による指導・助言等を通じて、事業全体に関する成果の分析を適切に行うことが求められる。
- SSH指定前後の変容を分析できるようにするために、指定前に関する質問項目も入れ、指定前後の比較ができるようにする等の工夫が必要である。

【② 教育内容等に関する評価について】

- 教育課程内において、3年間を通じた課題研究に係る取組を実施する等、課題研究に係る取組の時間を十分に確保することが必要である。
- 特にⅢ期目以降の指定校においては、課題研究に係る取組の対象を理数科のみではなく全校生徒にする等、課題研究に係る取組を全校体制で実施することが求められる。
- 文系生徒における課題研究に係る取組については、科学的な手法や考え方等を活用して課題研究に取り組むことが求められる。
- データサイエンスに係る取組を実施している学校においては、データサイエンスを活用してどのように理数系人材を育成するのかという視点から、研究開発を実施することが求められる。
- 理数系の部活動の生徒が外部コンテストにおいて成果を出すことが多い中、教育課程内の課題研究に係る取組において、全国的な外部コンテストに多くの生徒が出場し、入賞している点は評価できる。

【③ 指導体制等に関する評価について】

- 校内における指導体制について、理科・数学科の教師以外の教師も含めて全校体制で研究開発を実施する等、各教師の負担軽減に配慮した指導体制を構築することが重要である。
- 課題研究に係る取組に大学や企業の研究者等を招聘し、質の高い課題研究ができるような指導体制を構築していることは評価できる。
- 教職員の資質・能力を高めるための研修システムを構築していることは評価できる。
- 管理職が指導力を発揮する等して、学校全体において共通認識を持ちながら指導できるような体制の構築を期待したい。
- 教師や外部からの指導者がファシリテーターやメンターの役割を担いながら、課題研究に係る取組を指導していることは、評価できる。
- 大学生等をTAとして受け入れていることは良い取組であるため、指導助言の内容について、TAと教師との情報共有を強化して、生徒の成長に資するような方向性をTAに対しても示すことが求められる。

【④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価について】

- 外部連携について、各校において育成したい生徒の姿を明確にししながら、共同研究や教育活動を実施することが求められる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、様々な国とのオンラインでの交流が進んでいる。今後は、海外研修や国際共同研究等を現地で行う等、海外との連携をより充実させることも求められる。
- 課外活動における課題研究が活発に行われており、全国レベルや世界レベルの質の高い課題研究を行っていることは評価できる。部活動のメンバーが核となり、教育課程内における課題研究の質を高められるよう、課外活動と教育課程内の活動との有機的なつながりを構築していくことが期待される。

【⑤ 成果の普及等に関する評価について】

- 特にⅢ期目以降の指定校においては、他の学校においても開発教材等が活用されるよう、取組を一般化していく必要がある。
- SSHのコーディネーターの協力の下、県内のSSH校の開発教材等を活用しやすい形で公開しており評価できる。今後は、その活用実績や効果についても追跡することを期待したい。
- 特に先導的改革期の指定校においては、HPにおける情報発信以外に、全国に研究成果を発信するための取組が求められる。
- 成果やノウハウを継承するために、新しく着任した教師に対してSSH事業のオリエンテーションを実施することや指導マニュアルを作成することは評価できる。
- 卒業生の研究をデータベース化することにより、生徒が過去のデータを参考にしながら探究活動や発表方法を自発的に学べるような仕組みになっており、評価できる。
- 学会誌への寄稿やNPO法人が主催する講演会において、SSHによる取組に関して講演を行い、成果の普及を図っており評価できる。

【⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価について】

- 県内におけるSSHの意義を明確に位置付け、それを踏まえて県内の各学校に対しても成果の波及や、県の理数教育向上のためにネットワークを構築することを期待したい。
- SSH校が開発した課題研究に関する教材を管理機関のHP上に集約し、整理した上で公開する取組は、成果の普及に有効な取組であり、評価できる。
- 域内のSSH校において取り組んできた探究的な活動がその他の高校の参考となるよう、管理機関が中心となり働きかけをすることが求められる。また、SSH校の取組を活用する等して、他校の共通教科「理数」の開設につながる支援が期待される。
- 県内の大学や企業等との連携協定を管理機関が代表して締結することにより、SSH校が個別に行うよりも交流等が進みやすくなるため、このような取組は評価できる。
- 特に先導的改革期の指定校の管理機関においては、域内だけではなく、域外との横連携のモデルとなるように支援することが期待される。